

自由民主党国土強靱化総合調査会レポート NO.11

自由民主党国土強靱化総合調査会（会長：二階 俊博衆議院議員）の第十一回会合が下記の通り開催されましたのでご報告致します。

1. 日 時 平成 24 年 1 月 27 日（金）8:00～9:00
2. 場 所 党本部 707 号室
3. 参加者 二階俊博会長、野田毅顧問、町村信孝顧問、武部勤会長代理、林幹雄筆頭副会長、金子一義副会長、金田勝年副会長、宮腰光寛副会長、佐藤信秋副会長、鶴保庸介副会長、脇雅史副会長、福井照事務総長、平井たくや常任幹事、赤澤亮正幹事、谷公一幹事、長島忠美幹事、泉信也参与、あべ俊子、伊東良孝、伊藤忠彦、加藤勝信、北村誠吾、小泉進次郎、高村正彦、坂本哲志、古屋圭司、森山裕、磯崎仁彦、猪口邦子、岩城光英、片山さつき、小坂憲次、中原八一、二之湯智、松下新平、松村祥史、山本順三（順不同）

代理参加 古賀誠顧問、山東昭子顧問、三ッ矢憲生副会長、西村康稔常任幹事、山田俊男常任幹事、橘慶一郎幹事、井上信治、江渡聡徳、衛藤征士郎、梶山弘志、木村太郎、近藤三津枝、佐田玄一郎、塩崎恭久、谷畑孝、古川禎久、松本純、山本公一、山本幸三、岩井茂樹、衛藤晟一、金子原二郎、関口昌一、谷川秀善、野上浩太郎、藤川政人、古川俊治、松村龍二、松山政司、丸川珠代、山崎力、山崎正昭、若林健太（順不同）

4. 議 題 「稲むらの火—濱口梧陵に学べ」
（講師）作家 大下 英治 氏

5. 講演要旨

- ①津波対策法案は一昨年、二階先生が中心に作られ国会に提出されたが、与党・民主党が乗らず、東日本大震災後にようやく成立した。震災前に法案が通っていれば、もっと色々と防げたものもあった。民主党はいつも後手後手の対応である。
- ②濱口は和歌山の広村出身だが、銚子で醤油屋（※現在のヤマサ醤油）を経営していた。広村出身者の多くは成功しても故郷を大切にし、広村に本家を構え、二つの家を行き来し、故郷を栄えさせていた。当時の商人は自分だけ儲けてはいけないと思い、稼い

だ分は社会に還元することを考えていた。

- ③安政元年 11 月 5 日夜に発生した安政南海地震（推定マグニチュード 8.4）で濱口は
大津波の襲来に対し、高台の田にあった稲むらに火をつけ目印とし、全村民を速やかに
高台の八幡神社へ避難誘導をした。
- ④震災後、復興対策として、濱口は村民にただお金をあげても自立できなくなってしま
うと考え、高さ 5 メートル、1 キロにも及ぶ堤防を自費負担（工事費総額 1572 両）
で建設することで雇用創出を図った。その結果、村民は得られた日銭により農具の購
入や漁網の修復などができ、村は活気を取り戻した。また、建設した堤防は最終的に
は 700 メートルとなったが、昭和 21 年の大地震の津波ではその 700 メートル内の地
域は被害が少なかった。さらに、濱口は侍だけでは国難を乗り越えられないと考え、
侍ではなく農家や漁師の子供などを対象とした「耐久舎（現在の耐久高校）」という
塾を開き、後進の育成にも力を注いだ。
- ⑤濱口はその後、和歌山県初代県議会議長や前島密の前の通信大臣を歴任し、最終的に
長年の夢であった海外渡航を果たし、アメリカ・ニューヨークで没する。ラフカディオ
・ハーン（小泉八雲）がこうした濱口の活躍を描いて「稲むらの火」は有名になっ
たが、歴史に学べというが、まだまだ工夫したり、ケチな自分にとらわれなくてもっ
と国のためにやるという人間が和歌山にもいた。

6. 主な意見

- ・濱口のやる気をそこまで起こさせたのは何か。
- ・日本人が今日立派になった要因は日本人の価値観、心意気、信条が大きい。その一つ
の大きな典型がこれだと思う。歴史的に名前が残る偉大な個人もいたが、彼らを支
える庶民の間の価値観が優れていたのだろう。アメリカ型の「自分だけよければいい、
大儲けすればいい」「競争さえ公正に行われれば、勝つ人間はどこまでも勝ってよい。
それで困る人がいれば社会的に助けてあげればよい」といった精神ではなく、かつて
の日本人は分を知っており、人を押し退けず、それぞれの分野で一生懸命頑張り、自
分がやっている分野で一番よいものを作ることなどに価値観を置いたのではないか。
それが明治維新を支え、戦後を支えてきたが、その精神は今は半分くらいしか残って
いない。これを支えるために再び作り直していかなばならない。量の拡大より質を高
めることを求めていくべき。
- ・近江商人の生き方は「売り手によし、買い手によし」である。そこで、「作り手によし、

売り手によし、買い手によし」の幸福倍増論が自民党の次の選挙のキーワードになる気がする。頑張れば相手に感謝されるので、それが喜びになる。「強く、たくましく、しなやかに」で、この調査会のキーワードを作る必要がある。

- ・濱口のキーワードは総合性ではないか。総合的に多面的に次々と対応するマインドを持っていた。ヨーロッパのルネサンス時代のダヴィンチは芸術の面の総合性だったが、濱口は社会的な総合性を考えていた。近代が進むにつれて、その真逆で細分化されてきている。この国土強靱化は再び総合的にやろうとするダイナミクスがある。濱口はなぜこうした総合性ができたのか。それを奨励する当時の日本の社会観をどう取り戻すのか。官僚機構は縦割りで仕事をすればよいが、政治はダヴィンチ的で、濱口的なマインドを取り戻すべきではないか。
- ・濱口は「商人道」を持っているが、「道」は武士道など道を究めるという心根である。アメリカはもともとプロテスタンティズムの倫理があり、儲かったら寄付をするといった地域貢献もやっていて、伝統的な資本主義は倫理性があった。
- ・大下先生なら今の福島をどうするか。政府は仕事をつくる政策を先にまわし、お金を先にまいてしまったので、おかしな状況になっており、企業が人を募集しても応じない。
- ・はやぶさのチームリーダーの川口氏は「我々宇宙開発者に原発を作らせたならあの様な馬鹿な事故は起きなかった」と言っている。
- ・今の時代は、経営者の統治能力が求められる。政治家にも求められる。人を動かすといった発想だが、人を動かすのは役人にはできない。この国の総理はなぜダメなのか。政治家になるためのノウハウを教える塾で、理念をもって人を動かすことを教えていないのではないか。そのため、他人が何をしてくれるかに着眼するしか価値基準がない。
- ・「稲むらの火」は自身の選挙区なので以前から関心を持っていた。阪神大震災の時、国会の災害特別委員会で「『稲むらの火』というのが戦前の教科書にあったが知っているか」と政府に質問をした。しかし、その後政府では調査などしていないようなので、大下氏の著作が楽しみである。今年自分の出身地の町の成人式に出席した際「稲むらの火」の話をしたら静まりかえった。今後我々も語り継いでいく責任がある。

7. 大下英治 講師の主な著書

- ・ 「闘争！角栄学校」（講談社）
- ・ 「日はまた昇る・二階俊博の道」（紀州新聞社）
- ・ 「大波乱の予兆・野田民主VS谷垣自民」（徳間書店）
- ・ 「高村正彦『真の国益を』」（徳間書店）
- ・ 「武部勤の熱き開拓魂」（徳間書店） 等

8. 今後の予定

- 日 時 2月9日（木） 午前8時～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 エネルギー政策と政治のリーダーシップ―田中角栄氏を回顧しながら―
講師：財団法人 経済産業調査会会長 小長 啓一 氏
- 日 時 2月16日（木） 午前8時～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 国土の強靱化とは（仮題）
講師：キャノン株式会社代表取締役会長兼CEO 御手洗 富士夫 氏
- 日 時 2月22日（水） 午前8時～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 国土の強靱化とは（仮題）
講師：石油連盟会長・出光興産株式会社代表取締役会長
天坊 昭彦 氏
- 日 時 2月28日（火） 午前8時～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 国土の強靱化とは（仮題）
講師：元大阪府知事・エアウォーター（株）取締役 太田 房江 氏

※ご意見送付先

【事務局】自由民主党政務調査会

国土強靱化総合調査会 担当

TEL : 03-3581-6211

(内線5425)

FAX : 03-3581-6700

E-MAIL : kokudo-kyojinka@mail.jimin.jp

以上